

波郷 記念館 だより

第51号



発行日 令和3年3月25日

江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂
5-1-7
電話 03(3640)1751

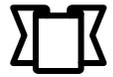
第二〇回石田波郷記念「はこべら」俳句大会

受賞作品決定いたしました

石田波郷記念「はこべら」俳句大会は、今年で二〇回目という節目を迎えました。

今年度は、三〇三名、六〇五句の応募がありました。

上田日差し（ひざし）先生、岸本尚毅先生、鈴木しげを先生、徳田千鶴子先生、能村（のむら）研三先生による選考で、はこべら賞、石田波郷記念館賞、特選、入選の各賞が決定し、三月一四日（日）、砂町文化センターにて授賞式が行なわれました。



はこべら賞

波郷忌や胸のなかにも風の音

小松丈夫

上田日差し先生特選、徳田千鶴子先生入選、能村研三先生により、はこべら賞を受賞されました。

【上田日差し先生講評】

波郷は胸に空洞ができる病に苦しみました。呼吸に「風の音」を聞くのは辛いこと。また、「胸」を「胸中」（心中）と捉えて考えれば、空虚な思いを「風の音」だと把握したのかもしれない。



石田波郷記念館賞

色鳥やここにも水の湧く処

重山陽子

上田日差し先生特選、鈴木しげを先生入選により、石田波郷記念館賞を受賞されました。

【上田日差し先生講評】

場所は定かではないが、絶えず水が湧く池を巡っている。その水の清らかさを賞でていると「色鳥」を見つけたのである。色鳥の美しさと湧水の潤いが見事に重なった。

「はこべら」俳句大会と石田波郷

「はこべら」俳句大会の名称は、波郷の句

はこべらや焦土のいろの雀ども

(句意) はこべらが萌えはじめ、そこに焦土の色をした雀たちが降りて来た。焦土となった地にも平和な時代が訪れようとしている。

が由来となっています。

季語の「はこべら」は、春の七草の一つで、路傍などあちこちで自生しています。

「はこべらや」句は句集『雨覆』（あまおおい）（昭和二三年刊）のなかの一句です。

本集は、波郷が昭和二〇年より二二年までに詠んだ二七〇句を収めたものです。

後記で、波郷が「江東焦土にて」と記すように、当時の江東区北砂はまだ焼け野原の状態でした。



句集『雨覆』※展示中

波郷には多くの焦土諷詠の句があります。「はこべらや」句も春の焦土の情景が詠み込まれています。

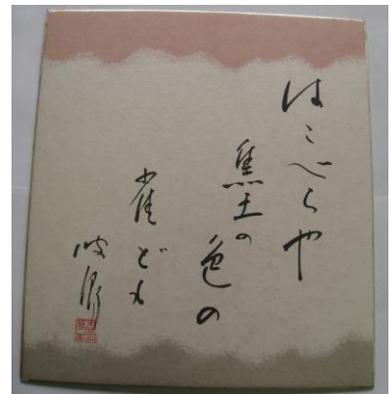
波郷自筆

「はこべらや」句色紙

(石田波郷記念館蔵)



昭和34年(1959)、「はこべらや」句碑が、波郷の住んだ江東区北砂の妙久寺に建てられました。



第二〇回「はこべら」俳句大会句集を砂町文化センター窓口で販売しています。一冊五〇〇円



はこべらすずめ

波郷のすじつた砂町

波郷が城東区北砂町（現・江東区北砂）に転居したのは、昭和二十二年三月です。その後一二年間住みました。波郷は砂町を「第二の故郷」と呼び親しんでいました。

波郷が砂町について綴った随想からは、砂町の光景と砂町への思いをうかがうことができます。

「砂町ずまひ」より

▼ 私が砂町に住むやうになつたのは昭和二十一年三月、まだ蕭条（しょうじょう）たる焼野原にバラックが点々と散らばり、あちらこちらの草の中から蛇口のこはれた水道が水を噴いてゐた。地下室の焼跡には水が溜つて、蛙がかいかいと鳴いてゐた。

▼ 砂町に住むやうになつて少し歩いてみると運河が実に多い。そしてその堤よりも町の方が低いのである。

坂なして橋光りたり降り出す雪
穂草波橋は坂なし又坂なす

秋草や焼跡は川また運河

雪敷ける町より高し小名木川

などの句の通りで、橋は高い川を越える為坂をなしてゐるのである。

「第二の故郷」より

▼ 昭和二十一年三月

十日の朝私たちは焼失して石階や礎石ばかりとなつた志演（しのぶ）神社と妙久寺の間の孤屋に越してきた。



志演尊空神社

▼ 南北砂町の荒野のやうな町に、土地の人々があらゆる困難に耐へながら新しい町作りをつゞけてゆく、はげしい生活力を眺めながら、私は私なりの充実を砂町の生活の中に得てゐたのである。

▼ 江東歳時記の遍歴を通じて江東といふ土地の風物人情に広く長く接して、私は自分自身もはや江東の人間以外のものでないことを充分に知らされた。

※「江東歳時記」波郷が取材した俳句と写真の随想。

砂町文化センターニュース VOL.51

— 砂町で吟行&句会を開いてみませんか —

【施設のご案内】～句会に～

砂町文化センターでは、「会議室」などの施設をお貸出ししております（有料）。

センターには、「石田波郷記念館」、「砂町図書館」が併設されています。図書館には俳句関連図書コーナーもあります。



第1会議室



石田波郷記念館

【周辺のご案内】～吟行に～

文化センターの周辺には、石田波郷も歩いた妙久（みょうきゅう）寺や志演（しのぶ）尊空神社、JR貨物小名木川（おなぎがわ）線などがあります。

また、少し足を延ばしていただくと、小名木川や仙台堀川親水公園、江戸時代に建てられた旧大石家住宅（江東区指定文化財）など散策をお楽しみいただけます。

【会議室を利用するには】

3か月前の3日午後1時から、お電話で予約をお受け付けいたします。

（例えば、4月3日午後1時から、7月分の受付を開始します。）

詳しくは、砂町文化センターホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

江東区砂町文化センター 03（3640）1751

開館時間 9～22時（電話予約・料金等取扱は21時まで）